

はじめに

2000年より始まった藍染通信文化講座は、今年で23回目となります。これも多くの皆様が熱心に受講していただきましたおかげと、心より感謝いたします。

この藍染通信文化講座は、当公社が徳島の特色ある文化をアピールする方法はないかと思案していたところ、公社主催の染色講座で講師をしていた故アキヤマセイコ氏からお声がけをいただき、阿波の藍染を未経験の方でも染められ、教室に来られなくても体験できることを目的として始めました。

アキヤマ氏は、当講座のテキスト、および参考書となる「阿波の草染涙色」の著者であり、長年染色の研究に取り組むことで、様々な技法を考えられました。

その研究成果としては「紫紺のしずく」という、少量でも濃い色が染められるすくもの作り方や、藍生葉を使い、自然発酵で赤や紫、灰、茶、緑色などを染める方法を考案されました。これらの方法はテキストに記載されています。

アキヤマ氏は、当講座の第1回から第21回まで講師を勤められました。が、残念なことに令和3年にお亡くなりになりました。

そこで、アキヤマ氏の技術と志を受け継いだメンバーで組織された藍染通信文化講座運営委員会【チーム SHIBUKOYA】が当講座をサポートさせていただくこととなりました。

今年も皆様により深く藍を楽しんでいただけるよう、チーム一丸となって努力してまいります。

カリキュラム (全10回)

3月

藍の種を植える

藍草からいろいろな色を染めるため、種を送りますので植えてください。作り方は詳しくテキストで説明していきます。実習に必要な藍を収穫してください。3m四方以上の量があります。



4月

布を絞る

絞りの技法5種類を解説します。藍染のために用意しましょう。



5月

リュウキュウ藍を育てて染める

沖縄やインド、中国等で育っている藍で、多年草です。この藍は寒さに弱いので、ハウスや室内で冬を過ごし、春に外に出して挿し木で増やし、さまざまな方法で染めます。



6月

沈澱藍の作り方と染め方

①リュウキュウ藍やタゲ藍を使って藍を沈澱させる方法です。図解と実習を行います。
②それ以外に新しく塩を使って沈澱させる方法を図解実習します。その液は11月に使用します。



7月

藍生葉で青を染める

藍生葉をミキサー方法、塩揉み方法等で、絹と木綿を染める実習をします。データ用の見本布、実習用の生地をお送りします。



8月

生葉で七色を染める

①ウールの原毛や絹糸を湯漬けにして染める方法です。
②藍の生葉を発酵させて水に浸け、その液を使って染めます。



9月

すくもを作る

藍の乾燥葉を使って、少量のすくもを作ります。



10月

すくもを藍建てする

自作のすくもを使って藍建てし、染めます。



11月

沈澱藍を使って描く

沈澱藍を建て、文字や絵を描きます。



12月

藍の色止めの一つとして柿渋染

藍のさまざまな方法で7つの色を染めました。型染めの技法で、インテリアを作ります。



講座のすすめ方は…

3月から12月まで、毎月1回テキストや材料などをお送りします。お送りするテキストやご案内するネット上の動画などを参考に、ご自分で学習していただけます。テキストなどに、ご不明な点がございましたら、メール、FAX、郵便などで質問を受付けます。また、希望者の方には、現地徳島にお越しいただき、様々な実習を体験していただくスクーリングを予定しています。

運営

チーム SHIBUKOYA

(藍染通信文化講座運営委員会)

2021年発足した、アキヤマセイコ氏の技術と志を受け継いだメンバーたちで組織される当講座の運営委員会。

メンバーは徳島県内の公共施設などで染色指導を行い、アキヤマ氏の研究成果や、染色技術の普及に努めている。



協力

新居 修氏
(新居製藍所)

明治初期より続く藍師の6代目。2017年度「現代の名工」に選ばれる。藍種子やスクーリング会場の提供など本講座に協力。30年ほど前から藍師や藍作家を目指す県内外の若者らを研修生として受け入れ、技術を伝えている。



受講者の声

阿部 早織 様 (宮城県 在住)

徳島とは気候の違う仙台で、マンション住まい、3歳になる娘を子育て中…色々と不安でしたが、実際、藍はプランターでも元気に育ってくれて、随分楽しませてもらいました。テキストの全てができなくても、受講者の置かれた状況に応じて様々な方法を提示して下さったり、適切なアドバイスを頂けたのがとても良かったです。

坂野 真子 様 (奈良県 在住)

藍染めは以前にも経験ありましたが「自分で一から藍建てしてみた」と思っていたところ、藍染通信文化講座を知り受講させていただきました。藍は青に染まるのみと思っていたのですが、7色も染めることを知り驚きました。とても解りやすい説明と動画で私も色々な藍染めが出来ました。質問できるのも大変助かりました。奥深い藍染めの世界が知れて、とても感謝しております。

湯田 弘美 様 (福島県 在住)

故郷会津にも藍に親しむ文化が残り、とても興味深く藍のたくさん秘められた魅力を知りたい気持ちを抑えられず、日々の忙しさも顧みず受講することに。染めの工程からも魅力は想像を超えました。自然の持つ力、共存していく今の時代に必要不可欠と感じました。来年、またその次も、藍の種蒔きから始めたいと思っています。

スクーリング風景 シビックセンター・技の館 (令和4年6月)

